

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671800427	
法人名	医療法人 一樹会	
事業所名	グループホーム サンファミリー	
所在地	徳島県美馬市脇町字拝原1354-2	
自己評価作成日	令和4年10月15日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和4年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

例年は近くの小学生との餅つき交流や、地域住民の方との祭りや一斉清掃などに職員・利用者様と共に参加し、災害時の協力で役立つようコミュニケーションを図っています。しかし、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の為に交流が出来ていません。車での外出・外食もままならず、天候の良い時に農園まで行き草花を鑑賞したり、デッキで隣地の桜などの花見するなど、代替対策を行っています。毎日の暮らしの中で、家事的なこと(食器洗い・モップ掛け・洗濯物たたみなど)を職員と共にこない、また各人の趣味にあわせて、脳トレ(削り絵・塗り絵・パズル・囲碁・鳴潮など)を日常の随所に取り入れています。コロナ禍でも、利用者様が毎日を楽しく生き甲斐を持って日々を送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山間部の県道沿いにあり、自然美豊かな場所に位置している。近隣には、同一法人が運営する医療機関があり、日中の訪問診療や夜間の緊急時対応など、24時間対応可能な体制を整備している。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、毎月、写真入りの事業所だよりを家族等に送付したり、電話を取り次いだりしている。また、感染症の状況を鑑みつつ、時間制限を設けない窓越し面会を行うなど、利用者や家族等が安心できるよう努めている。外出も、安全面に配慮しつつ、ドライブやウッドデッキの外気浴などを行い、利用者一人ひとりがゆったりと自分らしく、自由な暮らしができるよう取り組んでいる。毎日の食事は、管理栄養士が立てた献立をもとに、職員が調理している。定期的に嗜好調査を行い、メニューに反映するなど、楽しむことができるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域が一体となってサービス提供できるように理念を唱和し、常に念頭に置き実践している。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。毎朝、理念を唱和するとともに、玄関やホール等に理念を掲示し、職員間で周知・共有化を図っている。職員会議や新人研修等で、理念について振り返り、日ごろの支援の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年花木や琵琶・柿など頂いたり、地域の祭りでのお神楽を地域の人が声をかけてくれるなど、地域との繋がりを大切に交流を続けている。	事業所では、地域の小学校や保育園、自治会など、日常的に交流している。感染症（コロナ等）の流行下においては、電話等で連絡を取ったり、毎月の地域の清掃に職員が参加したりするなど、交流の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護で得た認知症ケアに関する知識を運営推進会議での機会を通して、認知症の理解や支援の方法などを伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様・家族様・地域包括支援センター職員・地域住民の代表者の方々に暮らしの状況を報告し、アドバイスを頂きサービス向上に反映している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行に伴い、書面による会議を実施している。各委員に、事業所や利用者の現況等を報告し、意見等を得ている。管理者は、会議に家族や地域の関係者等の参加を得ることを検討している。	今後は、感染症の状況を鑑みつつ、利用者家族や地域の関係者など、会議の委員を増やすことで、さらなる地域の理解と支援を得る機会となることに期待したい。また、出された意見等について、各委員にも共有化を図ることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員と連絡を取り、待機者の有無等また運営推進会議への出席を依頼している。	職員は、毎月、市の担当窓口を訪問している。訪問時には、事業所や利用者等の現況を報告するとともに、情報や助言等を得ている。また、地域包括支援センターとも連携を図り、困難事例を相談したり、入所の相談を受けたりするなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、往来の激しい立地条件の為、事故防止として施錠している。家族様に説明・了解は得ている。	事業所では、年1回、身体拘束に関する研修会を開催している。毎月、身体拘束廃止委員会も実施し、拘束の内容や弊害等について、職員間での周知・徹底を図っている。日中は、裏口を開放し、利用者が自由に入出りできるようにするなど、拘束をしない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修を職員全員で行っており、虐待防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修を行い、また家族様にも説明し必要に応じて活用が出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書及び重要事項説明書を理解と納得をされた後、署名捺印して頂いている。その後も状況に応じて説明し、同意確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き、利用者様・家族様の意見を表出させている。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や意向等の把握に努めている。家族等については、毎月の来訪時やホームだよりの郵送時に、意見等を引き出すよう努めている。出された意見等について、職員会議で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、情報交換会やケース会議等の機会を通して、職員から運営に関する意見や提案を聞き取り、現場の意見や考え方を尊重しながら、ホームの運営に反映できるよう努力している。	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員の意見や要望等を聞き取っている。朝礼や職員会議、ケース会議等の機会にも、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等をもとに、代表者と協議・検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定められた労働時間を厳守し、更に休養が確保できる休日体制をとるなどして、働きがいのある職場環境や労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理念に適した人材を育成するために、ホーム内研修会を実施するなど、介護理念や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前までは、管理者や職員は、美馬市グループホーム連絡協議会に参加し、交流・情報交換を行っていたが、現在交流ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安や要望には、謙虚に耳を傾け、安心して生活が送れるよう全職員は利用者様・家族様と良好な関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望などを聞かせて頂き、問題の解決を図っていけるよう、家族様との信頼関係の構築に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に訪れた際、本人様・家族様の意向を聞き取り、一番必要なサービスを見極め、地域包括支援センターに相談連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員は調理や掃除等日常生活を共に過ごす中で、相互に支え合うという関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様を支援するにあたり、何事も家族様に状況を話し相談しながら、本人を支えていくという関係作りに努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の来訪時には、ガラス越しではあるが、話がスムーズにできるようきっかけ作りをしている。	事業所では、利用者の馴染みの人や場所との関係継続に向けて支援している。感染症の流行下においては、窓越しでの面会を実施したり、家族や友人・知人等からの電話を取り次いだりして、関係性が途切れることのないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、気の合う利用者様同士の関係を把握し、会話や共に支え合う雰囲気作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居された利用者様には、時々お見舞いに行き様子を尋ねるなどして関係継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の間に入り、ゆったりとした雰囲気の中でお茶でも飲みながら、本人様の暮らし方への希望や意向の把握に努めている。 意思決定が困難な方は、家族様等から情報を収集し希望や意向に沿うよう支援を行っている。	職員は、日ごろの利用者との関わりのなかで、会話や表情、仕草などから、意見や意向等の把握に努めている。家族や専門職、知人等からも情報を得つつ、職員間で共有化を図り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の基本情報台帳にて、今までの生活情報を把握している。 本人様のプライバシーに十分留意しながら、必要性を本人様や家族様に十分説明している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の焦点情報(私に出来ること・出来ないことシート)の活用により、出来ないことより出来ることに注目しながら生活能力全般への把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様より、生活習慣・好み、意向や希望等を聞き、その人にとってよりよい介護計画の作成に努力している。モニタリングにより、適切に介護計画の変更を行っている。	事業所では、利用者や家族等の意向を踏まえた介護計画書を作成している。定期的なモニタリングや見直し時には、専門職等からも意見を得ている。随時、心身状況に応じた見直しも行き、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、昼夜にわたり生活の様子や足跡、心身の変化等を記録している。その情報は職員全体で共有しながら、ケアの意義や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状況や家族様の実情に応じて、買い物支援・散髪・受診介助など、臨機応変な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はイキイキサロン等への参加を行っていたが、現在地域資源を活用した支援を行うことが困難となっている。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族様と話し合い、本人様にとって適切な医療が受けられるよう支援している。	事業所では、利用者が希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医を受診する際は、家族等の協力を得ている。協力医療機関と連携を図り、24時間対応可能な体制を整備している。また、認知症専門医等、地域の医療機関とも連携し、適切な医療受診に向けて支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師が利用者様の健康管理を行っている。母体法人の医療とも連携をとりながら、適切な対応を行っている。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様と相談しながら、入退院が円滑に進められるよう取り組みを行っている。退院後のケアについても情報交換しながら支援している。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けたケアについて、本人様・家族様に説明し話し合っている。重度化した場合は、本人様・家族様の意思を尊重し支援している。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期における指針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。本人の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を確認しつつ、かかりつけ医や関係機関等と連携を図り、チームで支援に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応への研修会を実施して、全ての職員が事故や災害など実際の場面で対応に万全を期すことが出来るように取り組んでいる。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が避難場所を把握している。消防署や地域の方の協力を得て、避難訓練や通報訓練・消火器の使用訓練などを行っている。	年2回、地域住民や消防署等の協力を得て、避難訓練を実施している。日中・夜間の火災等を想定し、消火訓練などを行っている。また、災害時のマニュアルや備蓄品なども整備し、災害時に備えている。			

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はプライバシー保護に関する研修を定期的に実施している。利用者様は人生の大先輩であることを常に念頭に置き、傍に寄り添いゆったりとした雰囲気の中で話しかけている。	事業所では、年1回、プライバシーに関する研修会を開催し、職員間での共有化を図っている。職員は、利用者一人ひとりを尊重した支援に努めている。排泄・入浴等の誘導時は、自尊心を傷つけることのないよう、さりげない声かけを心がけている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望や自己決定できるよう、職員が柔らかい雰囲気作りを行っている。また、利用者様が自分の意思で希望や願いを決定できるよう働き掛けを行っている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ禍で外出する機会もほとんどなく、ホールでのゲーム・レク等へ声掛けしている。利用者様から「洗濯たたもうか?」と仰ってくださる方もいて、家事の提案をされている。またこちらからの発案を待っている利用者様には、働きかけなど行い決定して頂いており、より好ましい生活支援が出来るよう取り組んでいる。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室の洗面台に利用者様の使い慣れた化粧水・乳液など置き、鏡を見ながら身だしなみを整えている。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来ることは準備から手伝って頂き、職員も同じテーブルを囲みながら楽しく食事できるよう雰囲気作りを心掛けている。	食事は、管理栄養士が立てた献立をもとに、事業所内で調理している。定期的に、利用者の嗜好調査を行い、月2回は調査結果を反映した食事を提供するなど、食事が楽しみなものになるよう工夫している。また、配膳や片付け、おやつ作り等、利用者と一緒に行動することで、生きがいに繋げている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により各人のカロリーや水分摂取量が管理されており、カロリー過不足や栄養の偏りがないように毎日の摂取量を記録しながら利用者の食生活を支援している。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後居室にて口腔ケアの声掛け誘導を行っている。職員の見守りの下、自力でブラッシング・うがい、また、ご自分で出来ない方には適宜介助を行い口腔内清潔が保持できるよう支援している。				

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い各人の排泄パターンを把握し、適宜尿パッドを使用している。利用者様には出来るだけ排泄前誘導へと繋げていけるように、トイレ誘導介助を行っている。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。把握した情報にもとづいて、できる限りトイレで排泄することができるよう支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために、なるべく繊維質の多い食物や朝食に牛乳・ヨーグルトなどの乳製品を提供している。水分量もチェックし、一日1Lを目安に飲用できるように心掛けている。また一日2回の歩行運動も取り入れ、筋力維持と共に支援している。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は日中入浴であるが、希望があれば何時でも入浴できるよう支援体制を整えている。	事業所では、週2～3回は入浴することができるよう支援している。希望に応じて、入浴時間帯を変更することもできる。利用者の好みのシャンプーや入浴剤を使用するなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後横になりたい、と希望される利用者様には適宜対応している。また夜間不眠の方には、昼夜逆転にならないよう日中のレクに誘うなど、配慮した支援を行っている。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の処方内容ファイルを用い各人の服薬内容を把握し、服用時の確認を行っている。また服薬による異常や変化が見られる時には、医師や家族様に連絡し適正な対処が出来るよう支援している。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現役の頃に担っていた地域の役割ごとを活かして、ホームでの暮らしの中へ取り入れていけるよう利用者様の基本情報を基に、自分らしい暮らしへの支援を行っている。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の習慣や楽しみごとに合わせた外出の機会作りをしている。散歩・草花の手入れなど、戸外に出て気分転換しながら屋外活動を楽しめるよう支援している。	事業所では、気候のよい日には、近隣の散歩に出かけるなど、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、ウッドデッキを活用し外気浴等を行っている。また、安全面に配慮しつつ、初詣や花見に出かけるなど、利用者が生き生きと過ごすことができるよう支援している。			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の金銭管理の出来る利用者様には、ご自分で管理していただくことで安心感を持つことが出来、時々ご自分でお金を勘定している光景が見られている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者様には、御家族・知人様とのやりとりを自由に行っており、またホームの電話利用は、何時でも話が出来よう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには各月毎に季節感溢れる壁面題材や、四季折々の草を飾ったり、また遮光カーテンにより室温・光線の調節を行っている。	共用空間は、採光がよく、明るい。天井が高く、広々としている。利用者と一緒に制作した作品や生花を飾るなど、季節感を採り入れ、利用者が居心地良く過ごすことができる空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールの所々にソファを設置し、気の合う方との会話ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の状況に応じて、家族の写真など居室に飾るなどして、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、利用者にとって馴染みの家具や写真、ラジオなどを持ち込んでもらっている。利用者や家族等と相談しつつ、安全面に配慮して家具を設置するなど、居心地良く過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な利用者様には、居室内へ手摺を設置したり、歩行器で目的地まで移動するなどして、安全の確保に努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域が一体となってサービス提供できるように理念を唱和し、常に念頭に置き実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年花木や琵琶・柿など頂いたり、地域の祭りでのお神楽を地域の人が声をかけてくれるなど、地域との繋がりを大切に交流を続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護で得た認知症ケアに関する知識を運営推進会議での機会を通して、認知症の理解や支援の方法などを伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様・家族様・地域包括支援センター職員・地域住民の代表者の方々に暮らしの状況を報告し、アドバイスを頂きサービス向上に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員と連絡を取り、待機者の有無等また運営推進会議への出席を依頼している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員共有の認識の下、身体拘束はしないケアに取り組んでいる。夜間の施錠は、不審者など部外者への対策として施錠することを御家族様に説明し了解を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修を職員全員で行っており、虐待防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修を行い、また家族様にも説明し必要に応じて活用が出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容をゆっくり説明し、利用者様・家族様に十分納得頂いた上で署名捺印し、契約締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・家族様の意見や苦情は気軽に相談して頂き、ホームの運営に反映できるよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、情報交換会やケース会議等の機会を通して、職員から運営に関する意見や提案を聞き取り、現場の意見や考え方を尊重しながら、ホームの運営に反映できるよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定められた労働時間を厳守し、更に休養が確保できる休日体制をとるなどして、働きがいのある職場環境や労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理念に適した人材を育成するために、ホーム内研修会を実施するなど、介護理念や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前までは、管理者や職員は、美馬市グループホーム連絡協議会に参加し、交流・情報交換を行っていたが、現在交流ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安や要望には耳を傾け、全職員が利用者様・家族様と良好な関係を作り、安定した生活が送れるよう支援している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との信頼関係の構築に努力し、要望や問題解決を図っていけるよう努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に訪れた際、本人様・家族様の意向を聞き取り、一番必要なサービスを見極め、地域包括支援センターに相談連携をとっている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員は日常生活を共に過ごす中で、相互に支え合うという関係の構築に努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者様を支援するに当たり、家族様と「支え合う」という共通の認識に立って、何事も家族様に相談しその意見を尊重しながら本人様を支えていくという関係作りに努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の来訪時には、ガラス越しではあるが、話がスムーズにできるようきっかけ作りをしている。これまでに培ってきた人間関係が途切れることのないよう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様個々の個性や特徴を把握し、楽しく過ごせるよう努めている。また、職員は利用者様同士の支え合いが出来るよう調整役となって支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、入院時は面会に行くなど連絡をとりながらその後の様子を尋ねるなどして、関係継続に努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とその日の出来事を新聞などを中心に会話して、思い思いの出来事と重ねている。また、家族様来訪時には近況報告すると共に意向も伺っている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の基本台帳より、今までの生活情報を把握している。また聞き取りをする際には、本人様・家族様のプライバシーには十分配慮しながら行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の焦点情報(私に出来ること・出来ないことシート)の活用により、出来ないことより出来ることに注目しながら生活能力全般への把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様より、生活習慣・好み、意向や希望等を聞き、その人にとってよりよい介護計画の作成に努力している。モニタリングにより、適切に介護計画の変更を行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、昼夜にわたり生活の様子や足跡、心身の変化等を記録している。その情報は職員全体で共有しながら、ケアの意義や介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状況や家族様の実情に応じて、買い物支援・受診介助など、臨機応変な対応を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はイキイキサロン等への参加を行っていたが、現在地域資源を活用した支援を行うことが困難となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族様と話し合い、本人様にとって適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師が利用者様の健康管理を行っている。母体法人の医療とも連携をとりながら、適切な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様と相談しながら、入退院が円滑に進められるよう取り組みを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けたケアについて、本人様・家族様に説明し話し合っている。重度化した場合は、本人様・家族様の意思を尊重し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応への研修会を実施して、全ての職員が事故や災害など実際の場面で対応に万全を期すことができるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が避難場所を把握している。消防署や地域の方の協力を得て、避難訓練や通報訓練・消化器の使用訓練などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はプライバシー保護に関する研修を定期的に実施している。利用者様は人生の大先輩であることを常に念頭に置き、傍に寄り添いゆったりとした雰囲気の中で話しかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや、希望・好み等が気軽に話せるような雰囲気作りを行うと共に、自分の意思で希望や願いを決定していけるよう声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側から発案し働きかけなどを行い利用者様に決定して頂いており、より好ましい生活支援が出来るよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みに応じた衣服を選んだり化粧水で肌を整えたりするなど、個性あるおしゃれや身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来ることは準備から手伝って頂き、職員も同じテーブルを囲みながら楽しく食事できるよう雰囲気作りを心掛けている。食後の炊事が出来る利用者様には、見守りながら洗い物をして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により各人のカロリーや水分飲用量が管理されており、カロリー過不足や栄養の偏りがないように毎日の摂取量を記録しながら利用者の食生活を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後居室にて口腔ケア出来るように、声掛け誘導を行っている。自力で出来ない利用者様には、介助にて行い口腔内清潔を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い各人の排泄パターンを把握し、尿パッドを使用している。利用者様には排泄前誘導へと繋げていけるように、トイレ誘導介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便のために、なるべく繊維質の多い食物や朝食に牛乳・ヤクルトなどの乳製品を提供している。水分量もチェックし、一日1Lを目安に飲用できるように心掛けている。また一日2回の歩行運動も取り入れ、筋力維持と共に支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は日中入浴であるが、希望があれば何時でも入浴できるよう支援体制を整えている。本人の気持ちや習慣にあった支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠チェックシートを活用しながら、個々に応じた生活リズム作りと安眠導入への支援を行っている。日中はその人の疲労度に応じて、休息がとれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用・用法用量を職員が把握し、服用時の確認を行っている。服薬による異常や変化が見られる時には、医師や家族様に連絡し適正な対処が出来るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の暮らしの中で、利用者様の出来る力や出来そうなことを見つけ出し、その人らしい暮らしが出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の習慣や楽しみごとに合わせた外出の機会作りを行っている。散歩・季節の花見など、南側デッキや戸外に出て気分転換しながら屋外活動を楽しめるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談の上、お金を持つということの大切さを認識しながら、小遣い程度を自己管理している利用者様もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者様には、御家族・知人様とのやりとりを自由に行っており、またホームの電話利用は、何時でも話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには各月毎に季節感溢れる壁面題材や、四季折々の草を飾ったり、また遮光カーテンにより室温・光線の調節を行っている。ホールを中心とした居室配置であり、利用者様にも安心感がみられている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・廊下等のコーナーにソファや椅子等を設置し、利用者様一人で過ごしたり仲の良い者同志でくつろげるよう居心地のよい生活空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていた扇風機や愛用の寝具類・衣類を持参していただくよう、家族様の協力のもと設置・使用している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な利用者様には、居室内へ手摺を設置したり、ベッドの位置を変えるなどして、安全の確保に努めている。		